

転倒、転落・滑落（等）（ヒヤットしたりハットした事例含む）

事例収集からの報告と具体的な事例

1. 提出者数と件数

16名 34事例（うち女性は5名6件）が集まった

提出者数	件数	提出者数	件数
1	7	10	1
2	1	11	2
3	1	12	1
4	1	13	3
5	4	14	1
6	1	15	1
7	5	16	1
8	2	16名	34件
9	2		

- 1人当たり 2.1件お書きいただき、多い方は順に7件、5件、4件。この上位3人の方を除くと平均1人当たり1.4件。
- 但し、男女に分けて分析していない。
- いわゆるクロス分析（例えば下山と不注意）を行っていない。
- また時系列の分析ではない。
- 山域も触れていない。
- 個別の事例についてインタビューは行っていない。それもあり、事前にキーワードを提示していないので、「つまづく」「浮石にのる」「ルートを踏み外す」等がキーワードにでてこない。インタビューすればさらに詳細なデータとなる。

ご提出いただいた方には感謝いたします。

2. 総括

65%で「下山」時に「転倒、転落・滑落」が発生

キーワード	件数
下山	22
うち雨の下山	2
不注意 慎重さ欠如	14
油断 緊張緩む(安堵)	13
体力 技術 装備 経験不足	9
疲れ	8
荷が重い、大きい	2
おごり	1
予定外行動	1
件数計	70

(1) 提出者 34 事例でみると、

「下山」時に「転倒、転落・滑落」が発生したのが、22 件、34 件のうち 65%を占める。ただ、残りは沢であったり、雪山であったりするので、下山時に発生しているケースが際立って多いと言える。

「不注意 慎重さ欠く」「油断 緊張緩む」がそれぞれ 14 件、13 件で 41 % 38%を占める。

「体力 技術 装備 経験不足」9 件で 26%。

「疲れ」が 8 件で 23%。

(2) キーワード 70 件（提出者による重複がある）では、

キーワード 70 件でみると、「油断 緊張緩む」や「不注意 慎重さ欠く」の精神面を合わせると 27 件で 39%。下山 22 件で 31%、体力 9 件で 13%となる。

3. 具体的な7つの事例

	状態	原因
1	踏み出した右足が木の根に乗ってズルッと滑り、その先に横たわっていた古木の凹に沿って、そのまま横に吸い込まれるように木の根との間にはまり込んだ。瞬間、足首が外側に90度位曲がったように見えた。尻もちをつき座り込む。右足は痛くて力が入らず、歩ける状態ではなかった	下山道の終わり近くだったので、気が緩んでいた。疲労と油断、注意力に欠けていた。 現場は木の根っこや倒木が多く、砂が混ざったような滑り易い足元だった。一步の踏み出しに慎重さが足りなかった
2	下山時木の根に乗せた瞬間に滑ってザックを背に転倒 完全にザックを背に転倒した。後頭部を打たなかったのは、ザックが下であったから。あの勢いで岩などに後頭部をぶつけていたらどうなっていたかと後で思った。帰宅後にザックの中を見たら、100円ショップで買った、プラスチックの大きめの箱が割れていた。箱が割れたおかげでショックアブソーバーになって、身体は何ともなかった	木の根が滑りやすいことは、知っていたが、まさか自分が転倒することなど思いもよらずに油断があった。スピードを上げて、若干大股で歩いていたのかもしれない
3	転倒の直接的原因は下りの木柵の階段で階段から目を離した後、雨に濡れている木の部分に足を乗せて滑って転ぶ	その背景として、疲労（夜行バスでの睡眠不足、悪路の登山道で雨に長時間打たれる、雨具が約9年使用のため、雨を弾く力が弱く、びしょ濡れになり体力消耗、重い荷物を持つての長時間歩行、右足に違和感有等）のために自分の右足首の支える力が弱っていた事も間接的要因
4	何でも無い下りで木の根に足を引っ掛けて転倒し顔から落ちる。口内を大きく切り出血	単なる不注意で、同行者と雑談をしている最中であった。雑談は気晴らしで良いが、傾斜がある下りなので油断禁物である
5	樹林帯の石の多い巻道で、左側が切れたごく普通の登りの登山道。道全体が前日の雨で湿りがちではあった。大きめの石に乗せ	歩行開始後4時間程経過して、前夜の睡眠不足・給水不足等で若干疲れが出ていたが全く普通の登りで、集

	た右足が滑りバランスを崩す。あわてて左足を乗せた石も動き、支えきれずに左側斜面下に転落 1.5m程下の苔むした切り株で止まり、ケガはなかった	中力が欠けていたとしか思えない。こんな道で転落するかと不思議だった
6	宿泊天幕場近く、同行者の1人が5センチ程度雪の積もった登山道の縁を踏んで体勢を崩し滑落	不注意が第一。その場所は軽く右にカーブしていた。目的地が近いという安堵感も働いて、歩き方がおろそかになっていた。正確に安全帯に足を置かなければいけない場所で、その縁に置いてしまったが、雪ならびに、あの山域特有の花崗岩質の砂地となっていて、足を取られた格好になって、さっと滑り落ちていった
7	ほとんど下山し終わって川沿いを下りている時、道の右端にストックをついたら、枯れ草の上に落ち葉が積もった所で、ストックがそこを突き抜けて、体がぐるっと回って下へ落ちた	ほとんど下山したという、気持ち上のゆるみがあったせいかもしれない。落ち葉が積もっていて、ストックを突いた場所が土の上でないことに気づけなかった

4. 解説

下山時こそ、「注意を払い」「慎重に行動」する

警察庁による平成26年山岳遭難事故の要因別データで道迷い42%について、35%と大きな割合をしめるのが「転倒、転落・滑落」である。さらに今回の事例では記載がなかったが、道迷いから「転倒、転落・滑落」を引き起こす例が多い。

登山では「下山」時、「不注意 慎重さ欠く」、「油断 緊張緩む」ことで、「転倒、転落・滑落」を引き起こしてしまうことがわかる。

「転倒、転落・滑落」は「下山」時で多く発生することもデータから分かった。

「溜まった疲労」、山頂に立った（喜び）後の「気の緩み」、今日の行動の予定終了や下山の寸前で「注意力が落ちている」。さらには登りより、急斜面や段差があることで下りを苦手とする人が多いこともあろう。

少し疲れてきたが、下山がすぐの時こそ、「気を引き締め」直して、より「注意を払い」「慎重に行動」しなければならない。ことに厳しい稜線や岩場での「転倒、転落・滑落」は致命的であり、打撲、骨折などから行動できなくなる事例もある。

さらに、危険箇所を無事通過し、緊張を緩めた危なくなさそうな場所、とても起こりえない登山道、尾根や斜面で「転倒、転落・滑落」は起きている。

「なんでこんなところで転ぶの！」

「転倒、転落・滑落」は登山者個人の疲れ、「不注意」や「油断」から引き起こされるようだ。データの原因に書いていただいた皆さんが「不注意」や「油断」、「慎重さ欠如」に触れている。そのほかパーティが分かれ、急いだがため引き起こされた事例もある。つまり、その反対、「注意を払い」「慎重に行動」していれば防げる。

5

2014年9月号会報から一部を下記すると、

- 登りより下りの方が事故が多い。疲労の蓄積、山頂後、気が緩んでいること、下山間近で注意力散漫、下りの方が苦手など、下りほど気を引き締める
- パーティ間との距離があく→あせり
- 緊張を解く場所、解いてはいけない場所の認識
- 登山に対する慢心や油断は禁物

なお、今回の貴重な事例を育成だけで共有保存するのではなく、個人名を除いたデータとして山の会で共有するよう、会のサイト会員ページにまずアップにするよう検討したい。

参考 キーワード一覧

1	ほとんど下山	気持ちの緩み		
2	雨の中下山	体力不足	長時間歩行の疲れ	
3	疲れ	ザックを支えきれず顔から		
4	下山	帰りの時刻を気にして	慎重さ欠く	
5	下山	緊張緩む		
6	下山	緊張緩む		
7	下山	緊張緩む		
8	天幕近い(下山)	安堵感	歩行がおろそか	慎重さ欠く
9	下山近い	不注意		
10	油断した	冠雪に対する慎重さ	荷が大きく制動がきかなかつた	
11	雪面に不慣れ	苦手		
12	装備不十分			
13	装備欠如	油断	おごり	
14	下山	縦走の疲労	足元への注意散漫	
15	体力、技術不足、	疲労		
16	下山	疲労	油断	注意力欠如
17	慎重さを欠いた			
18	下山	雪山基礎知識不足		
19	下山	油断があった		
20	下山	雪上歩行の経験不足		
21	浅瀬であることの油断	モノを保護しようと		
22	雨の下山	疲労(夜行バスでの睡眠不足、悪路の登山道で雨に長時間打たれる、雨具が約9年使用のため、雨を弾く力が弱く、びしょ濡れになり体力消耗、重い荷物を持つての長時間歩行、右足に違和感有等		
23	下山	沢で怖さも分からない中で、慎重さを欠いた		
24	下山	不注意		
25	下山間近という油断	不注意		
26	下山	油断した	雑談しながら歩く	
27	下山	単なる不注意。よそ見していた訳では無い。緊張感が欠如		
28	雪上歩行の技術不足	緊張感の欠如		
29	下山	経験不足		
30	下山	足が届かない、安定した着地ができていない無理して下りようとした		
31	疲れた脚	足下への注意を怠る		
32	下山	前のパーティに追いつこうと急ぐ		
33	沢で予定外の行動をした			
34	前夜の睡眠不足・給水不足等で若干疲れ	全く普通の登りで、集中力が欠けていた		